

イチゴえらび

制作 / 天理教少年会本部



(1)

演出ノート

食^たべる^{こと}が^{だい}好き^すな

はるちゃん。

今日^{きょう}のおやつ^{じゆつ}は^{なに}何^{なに}かな？

と^{たの}楽^{たの}しみ^{たのしみ}に^{して}います。

はるちゃん 「おかあさんー！ きょうの

おやつは なーに？」

おかあさん 「イチゴだよ。テーブルに

置^おいてあるから

一緒に^{いっしょ}食^たべ^まし^よう。

はるちゃんは^お大喜^おび^い！

ぬ
く



(2)

演出ノート

つやつやで真まっ赤かないちごは

とっても美味おいしそう！

はるちゃんも、ううう

ううま。

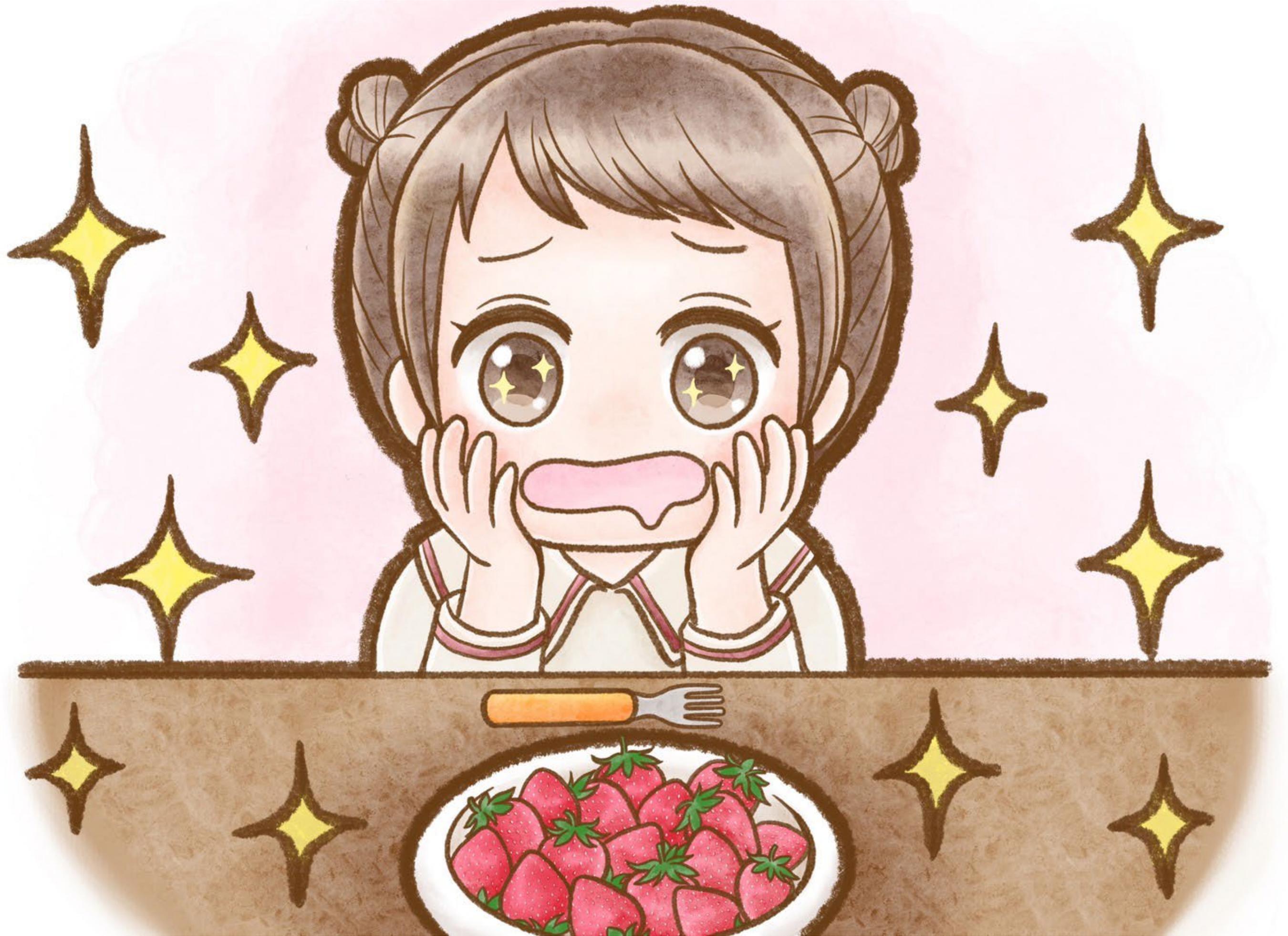
はるちゃん「いただきます」は、

「うー！ いただきます

ううまー！」

ぬ
∨





ふと、お母かあさんが取とった

(3)

イチゴを見みると、

つぶが小さいし、

白しろいところがあつて、

あまり美味おいしなくて、

ありません。

はるちゃん 「おかあさんは、どうして

おいしくなさないイチゴを

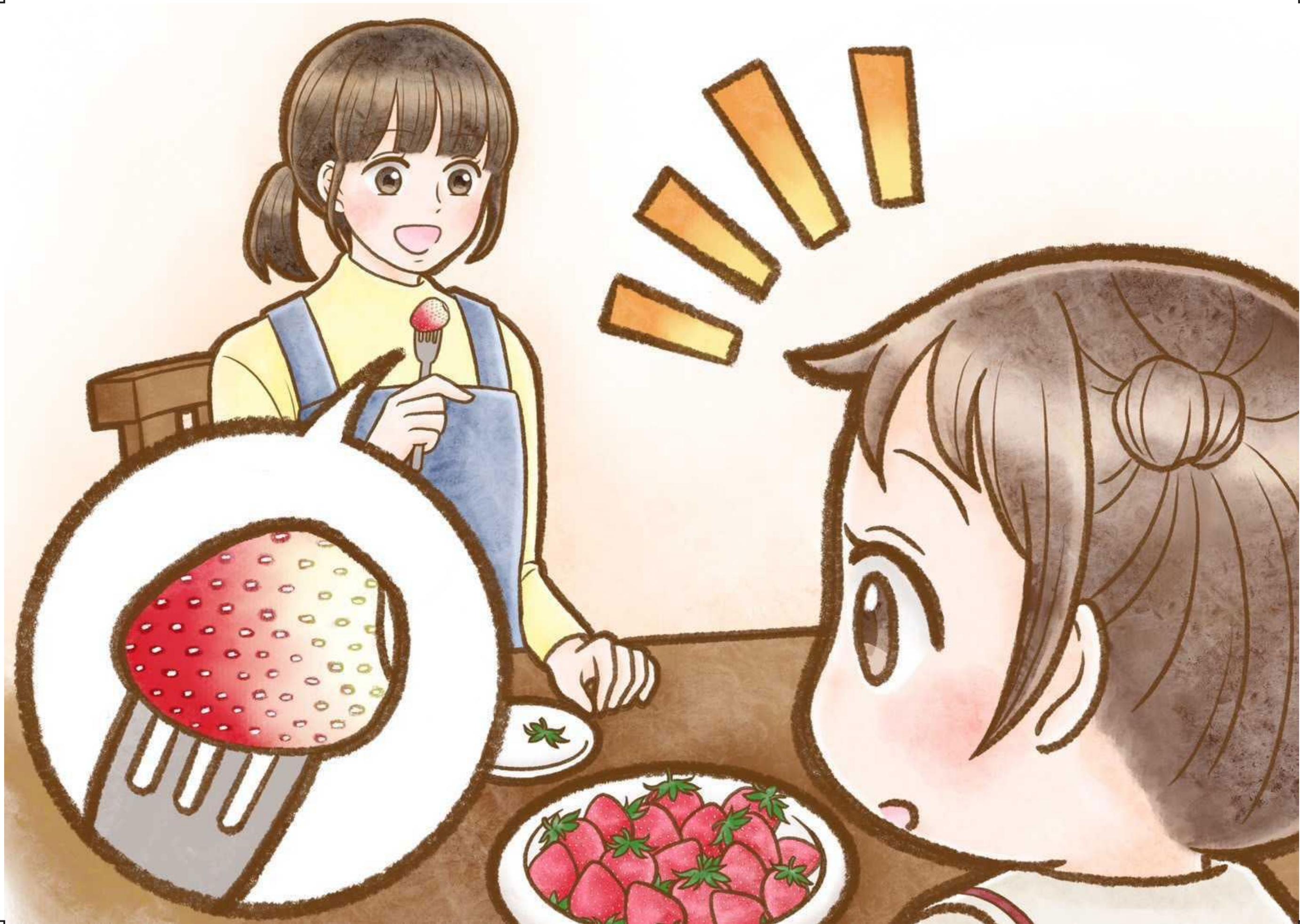
えいびびびえい

おかあさん 「それはね、
教祖おやさまのお話はなしで、

「のびの話はなしがねのび」

ぬ
／





(4)

ある年の秋、榎井あさめさんが

教祖のお部屋に行くと、

そこにはたくさん柿が

お盆に載って置いてありました。

教祖は、その柿をあちらから、

またこちらから

眺めておられました。

その様子を、あさめさんは、

「教祖も、柿をお取りに

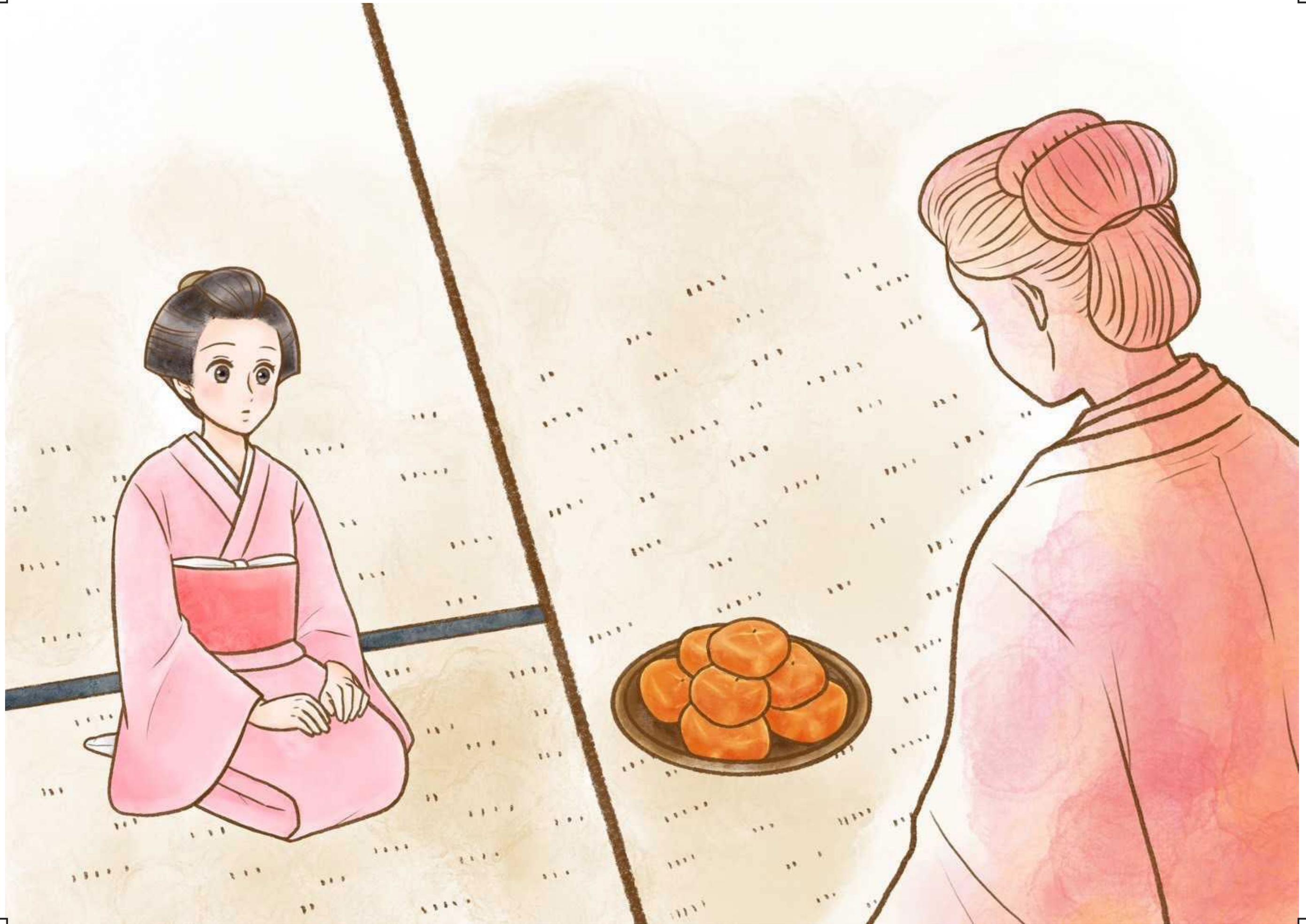
なるのに、やはりお選びに

なるのだなあ。」

と見て見ました。

ぬく





(5)

演出ノート

ところが、教祖おやさまがお取りとに
 なったのは、一番悪いちばんわるそうな
 柿かきだったのです。

そして、残りのこの柿かきが載のった

お盆ぼんをおさめさんの方ほうへ

押しおやして

「やあ、あまはんも

「っしお上あがり」

と仰おほせになりました。

ぬく





(6)

おさめさんは、

おさめさん 「なるほど。教祖もお選びに

なるけれど、教祖が

お選びになるのは私たち

普通の人とは違って、一番

悪いのをお選びになる。

これが教祖の親心なんだわ。

子供には美味しそうな柿を

後に残して、これを

食べさせてあげたいという、

これが本当に教祖の

親心なのね」

と、しみじみと思いました。

そして、教祖の仰せのままに

柿を頂戴したのでした。

演出ノート





(7)

おかあさん 「とてつうお話があるの。」

教祖は、世界中の人間を

みんなわが子のように

思ってくださいさっているのよ

はるちゃん 「そつだったんだー、

おやさまはみんなの

おかあさんなんだね」

おかあさん 「そつ、だからお母さんも

教祖と同じ気持ちで、

はるちゃんに美味しい

イチゴを食べて

喜んでもらいたいなって

思っただの」

ぬく





(8)

演出ノート

はるちゃんは少し考^{すこ}え^{かんが}てから、

はるちゃん 「はるちゃんもおかあさんに

おいしいイチゴ

たべてもらいたい！

はい！。ぎゅ。

と言^いって、お母^{かあ}さんに

イチゴをあげました。

おかあさん 「じゅぷ。

はるちゃん、ありがとう

はるちゃん 「おかあさんもありがとう

二人^{ふたり}でニコニコ美味^あい

イチゴを食^たべました。

おしまい

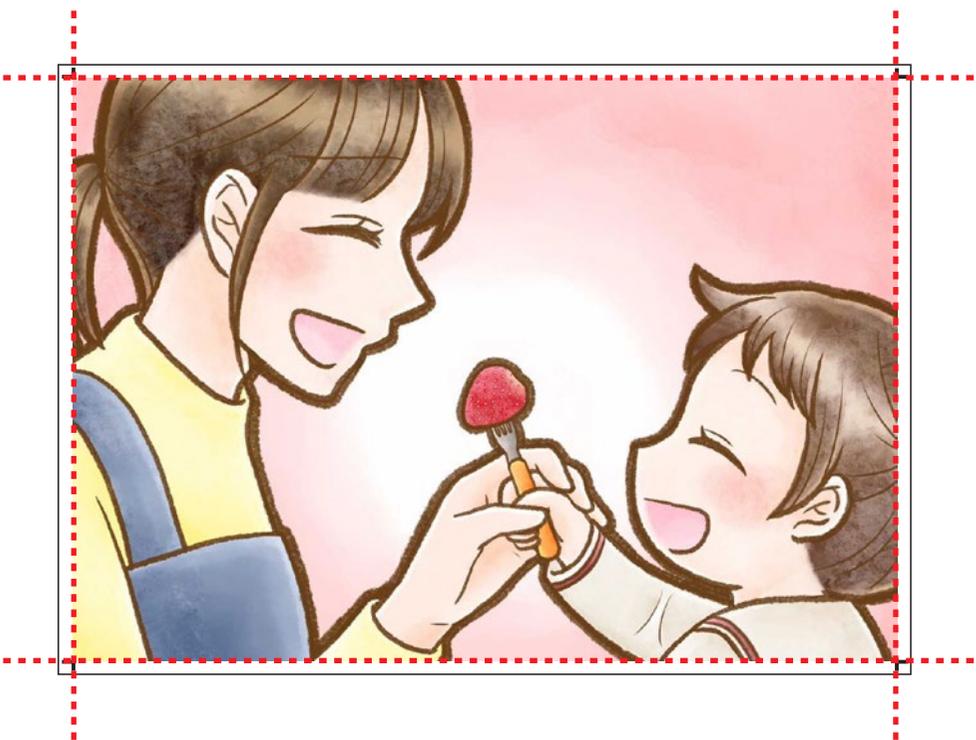


【印刷の手順】 ※両面印刷では順番通りに印刷できません。

① 奇数ページのみをカラー印刷（カラーイラスト面）

② ①で印刷したものの裏に、次頁の【裏表組み合わせ一覧】を確認の上、向きに気を付けて偶数ページを印刷

③ 余白をトリム線で切り落とす



→ 切り取り線

④ 紙芝居の順番を整える

※少年会本部では「コツカ再生画用紙」（縦380mm×横270mm）と
いう厚紙を使用して作成しています。

※カラー面・モノクロ面をそれぞれ別に印刷して、表裏の組み合わせを確認の上で、画用紙の両面に貼り付けても作成できます。

※このページは作品の内容と関係ありませんので、印刷しなくても問題ありません。取り扱い説明としてご参照ください。

